

学長候補者選考に係る第2次意向投票 の実施について(公示)

国立大学法人新潟大学学長選考規則第12条第1項の規定に基づき、第2次意向投票の実施について、下記のとおり公示する。

記

1 第2次意向投票の日程

平成17年11月30日(水)9時から15時まで

2 第2次学長候補適任者の氏名、略歴及び主要業績

(五十音順)

鈴木 佳 秀

長谷川 彰

山 本 正 治

略歴及び主要業績は、別紙「略歴調書」及び「主要業績に関する調書」のとおり

以上3人

3 第2次学長候補適任者の大学運営に係る所信

別紙「所信調書」のとおり

平成17年11月22日

意向投票資格者 各位

国立大学法人新潟大学学長選考会議

意向投票管理委員会

略 歴 調 書

2005 年 10 月 18 日

(ふりがな) 氏 名	(すずき よしひで) 鈴 木 佳 秀	生 年 日	1944 年 2 月 生
現 住 所			
学 歴			
年 月	事 項		
1968 年 3 月	国際基督教大学教養学部卒（教養学士）		
1972 年 3 月	国際基督教大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）		
1975 年 3 月	東京教育大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学		
1976 年 9 月	アメリカ合衆国カリフォルニア州クレアモント大学院へ留学		
1982 年 1 月	クレアモント大学院において宗教学により PhD 取得		
職 歴			
年 月	事 項		
1982 年 4 月	新潟大学教養部講師		
1984 年 10 月	新潟大学教養部助教授		
1990 年 7 月	新潟大学教養部教授		
1994 年 4 月	新潟大学人文学部に配置換え		
1999 年 4 月	新潟大学人文学部長（2003 年 3 月まで）		
2004 年 4 月	新潟大学大学院現代社会文化研究科に配置換え		
2004 年 4 月	新潟大学教育研究院人文社会・教育科学系長（現在に至る）		
2005 年 4 月	新潟大学大学院現代社会文化研究科長を兼任（現在に至る）		
学会及び社会における活動等	日本聖書学研究所（所員）・日本旧約学会（委員）・日本基督教学会（会員）・比較思想学会（会員）・Society of Biblical Literature（会員） 『旧約新約聖書大事典』翻訳閲読委員（教文館，1989 年まで）・『旧約聖書』翻訳責任編集委員（岩波書店，2005 年まで）・『ニューセンチュリー聖書注解』翻訳責任編集委員（日本基督教団出版局，現在に至る）・にいがた市民大学運営委員会委員（1999 年まで）		
賞 罰			
年 月	事 項		
1990 年 6 月	平成 2 年度日本学士院賞受賞		
その他参考となる事項			

主要業績に関する調書

氏名 鈴木佳秀

教育に関する業績
研究に関する業績
著書『申命記の文献学的研究』単著（日本基督教団出版局，1987 年・日本学士院賞受賞）『聖書の使信と伝達』共著（山本書店，1989 年）『律法・パウロ』共著（日本聖書協会，1992 年）『旧約聖書の女性たち』単著（ヨルダン社，1993 年）『なぜキリスト教か』共著（創文社，1993 年）『古代イスラエル預言者の思想的世界』共著（新教出版社，1997 年）<i>Problem in Biblical Theology</i> 共著（Eerdmans，1997 年）『旧約聖書と現代』共著（教文館，2000 年）<i>Reading the Hebrew Bible for a New Millennium</i> 共著（Trinity Press International，2000 年）『果てなき探究—旧約聖書の深みへ』共著（教文館，2002 年）『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』共著（高志書院，2003 年）『アブラハム—約束を背負わされた父と子』単著（新潟日報事業社，2003 年）他単著 1 編，共著 9 編 論文・（略） 単著 77 編 翻訳 HJ ベッカー『古代オリエントの法と社会—ハンムラビ法典と旧約聖書』単独訳（ヨルダン社，1989 年）G フォン・ラート『申命記』単独訳（ATD・NTD 聖書註解刊行会，2003 年）『旧約聖書 I 律法』分担訳（岩波書店，2004 年）『旧約聖書 II 歴史書』分担訳（岩波書店，2005 年）『旧約聖書 III 預言書』分担訳（岩波書店，2005 年）他 6 編
経営・管理運営に関する業績
その他（国際交流，地域貢献等）の業績

所 信 調 書

氏名 鈴木 佳秀

第二次意向投票に際し、候補適任者に認められている権利を行使し、候補を辞退します。

略 歴 調 書

2005年10月21日

(ふりがな) 氏 名	(はせがわ あきら) 長谷川 彰	生 年 日	1937年 5月生
現 住 所			
学 歴			
年 月	事 項		
1960年 3月 1962年 3月 1965年 3月	新潟大学理学部物理学科卒業 東京大学大学院数物系研究科修士課程修了 東京大学大学院数物系研究科博士課程修了 理学博士の学位取得		
職 歴			
年 月	事 項		
1965年 4月 1966年 4月 1980年 1月 1985年 10月 1994年 4月 1995年 4月 1997年 4月 2002年 2月	日本学術振興会奨励研究生 (～1966年3月) 東北大学助手 (理学部) 新潟大学助教授 (教養部) 新潟大学教授 (教養部) 新潟大学教授 (理学部) 新潟大学評議員 新潟大学理学部長 (～2001年3月) 新潟大学学長「現在に至る」		
学会及び社会における活動等	日本物理学会正会員 新潟市行政区画審議会会長 財団法人新潟県文化振興財団理事 財団法人内田エネルギー科学振興財団顧問		
賞 罰			
年 月	事 項		
1992年 12月 1993年 11月	第38回仁科記念賞 第46回新潟日報文化賞		
その他参考となる事項	特になし		

主要業績に関する調書

氏名 長谷川 彰

教育に関する業績
教養部において、各学部向けに物理学の講義を担当するとともに、授業方法開発を目的としたコンピュータ支援授業「数理科学の世界」を分担した。また、発足当初から大学院自然科学研究科に参加して、授業担当及び博士論文指導を行ったが、指導した院生は、現在、大学教員等として国内外で活躍している。
研究に関する業績
固体電子理論の立場から、大貫惇睦氏（筑波大学助教授、現在は大阪大学教授）の実験研究と協力して、重い電子系と呼ばれる新物質群における電子状態の解明に成功し、1992年12月、「遍歴する重い電子系のフェルミ面に関する研究」に対して第38回仁科記念賞を受賞した。
経営・管理運営に関する業績
学長就任以来、平成14年6月に「新潟大学の将来設計」を策定して本学の将来像を明確にし、その実現に向けて諸改革に取り組んできた。現時点では、教育研究院制度の正式発足、流動定員による戦略的・重点的教員配置、新学士課程教育システムの導入、21世紀COEプログラムの採択、超域研究機構の新設、専門職大学院（実務法学研究科、技術経営研究科（平成18年度予定））の新設、医学部・歯学部の両附属病院の統合、学長・理事直属組織の整備（企画戦略本部、知的財産本部、入学センター、国際センター、広報センター等）など、改革は、「新潟大学の将来設計」で示された方向性に沿った形で、ほぼ順調に達成されたものと考えている。 国立大学法人評価委員会による平成16年度に係る業務実績に関する評価において、全体評価では、積極的に改革に取り組んできた姿勢が評価され、また、項目別評価では、「業務運営の改善・効率化」「自己点検・評価及び情報提供」「その他業務運営」の各項目に対しては『計画通り進んでいる』、「財務内容の改善」に対しては『特筆すべき進行状況にある』と評価され、本学の改革は全体として非常に高い評価を得たと受け止めている。この結果は教職員一丸となった取り組みの賜であり、全教職員に感謝申し上げたい。
その他（国際交流、地域貢献等）の業績
1972年から2年間、ドルトムント大学（当時の西ドイツ）において研究に従事したことが契機となり、自然科学研究科で指導した院生を留学させるなど、教育研究交流を継続している。 平成17年4月から新潟市行政区画審議会の会長を務め、市長からの諮問により、行政区画編成と区役所位置について審議し、これらについては8月に答申を終え、10月からは区名の審議に入っている。この他にも、地域貢献の一環として、現在、財団法人新潟県文化振興財団理事など、20件を超える公的団体等の役職を兼ね、活動を行っている。

所 信 調 書

氏名 長 谷 川 彰

(大学運営に係る所信)

現在、どの大学法人も、大学の理念・夢と経営との両立に苦慮しているところですが、学長就任以来、大学として本来持つべき教育研究の理念を念頭に置きながら、法人の経営が順調に進むように努力してまいりました。「二兎を追う者は一兎をも得ず」ということにならないように、全力を挙げて取り組んでまいりました。

本学の諸改革は、皆様のご理解とご協力により、ほぼ順調に進捗しており、平成16年度業務実績に関する評価においては、国立大学法人全体の中でもきわめて高い評価を得ました。また、大学の創造的取組が一層重要視されるようになった概算要求では、平成17年度、「全学教育支援システム推進事業」に2億4千万円が措置されるなど、総額において国立大学の中で第6位の特別教育研究経費を獲得しました。さらに、国立大学法人の類型化の検討において、本学は「大規模総合大学」として旧7帝大を含む13大学の一つに位置づけられました。

この位置づけは、本学に対して大きな期待が寄せられていることを意味しますが、それは本学の教職員が極めて高い潜在能力を有していると認定されたことでもあります。教職員の皆様には大変ご苦勞をいただいておりますが、諸改革の成果は徐々に現れてきております。

法人化後、概算要求の手順も大きく変わり、自主努力が求められる部分も増えてまいりましたが、これまでの二年間で蓄積したノウハウと実績を踏まえ、以下の点に留意しつつ、本学の将来像の実現に向けてさらなる改革に取り組んでまいりたいと存じます。

○ 教育機能の強化

全学教育機構を中心とした教育改革、大学院教育の実質化、大学院保健学研究科博士課程の設置、教員養成分野の高度化を目指した検討等に取り組みます。また、教育課程の精選により研究に振り向ける時間を創出し、サバティカル制度の導入を図ります。

○ 研究の活性化・高度化

脳研究所の一層の充実を図る他、第二、第三の研究拠点形成に向けて、超域研究機構を通して優れた研究グループを支援します。また、理系、文系を問わず、地道で息の長い研究、あるいは、日の当たらない基礎的な分野に対して、こうした研究に専念できる環境の整備とともに、これら进行评估するシステムの構築を目指します。

(次頁あり)

所 信 調 書

氏名 長 谷 川 彰

(前頁より)

○ 社会展開・国際展開の充実

新潟県との連携融合事業を担う「災害復興科学センター」の設置、新潟市等との連携事業の強化、協定締結の拡大、国際戦略本部を軸とした GIS 分野や実証法研究分野の国際事業等を有機的に連携させながら推進します。

○ 歯学部総合病院の機能強化

病院の施設整備、駐車場等の環境整備、分院構想や高度救命救急センター（仮称）設置を含む地域医療への一層の貢献等を推進します。

○ 管理運営の改善

事務組織の再編、評価制度構築の検討、新たな人事制度の導入、キャンパス美化、環境配慮促進法への対応等を行います。

○ 施設整備の充実

旭町キャンパスでは、計画事業の完成を目指します。また、五十嵐キャンパスでは、自然科学系総合研究棟の大部分及び VBL 棟の新築が終了した現在、全学の学士課程教育を充実させるための総合教育研究棟の改修、専門職大学院技術経営研究科発足をにらみつつ自然科学系校舎の改修に早急に着手します。

なお、今後の施設整備については、これまで通りの施設概算要求では実現は困難であり、本学独自の努力を呼び水とした新しい手法など、この二年間での蓄積を活用して要求の実現を図ります。

以上、いくつかの実例を述べましたが、今後とも全学のご要望を踏まえ、第二期に向けて基盤整備と教育研究の充実・発展を図ってまいりたいと存じます。

略 歴 調 書

平成 1 7 年 1 0 月 1 9 日

(ふりがな) 氏 名	(やまもと まさはる) 山 本 正 治	生 年 日	昭和 1 8 年 1 2 月 生
現 住 所			
学 歴			
年 月	事 項		
昭和 43 年 5 月 昭和 49 年 4 月 昭和 55 年 6 月	新潟大学医学部卒業 新潟大学医学博士（論博） テキサス大学大学院修士課程修了(Master of Public Health)		
職 歴			
年 月	事 項		
昭和 43 年 9 月 昭和 44 年 8 月 昭和 49 年 10 月 昭和 53 年 4 月 昭和 58 年 3 月 平成 12 年 2 月 平成 13 年 4 月 平成 16 年 4 月	新潟大学助手（医学部衛生学） ボストン大学医学部リサーチフェロー（昭和 46 年 12 月まで） 新潟大学講師（医学部衛生学） 新潟大学助教授(医学部衛生学) 新潟大学教授(医学部衛生学) 新潟大学医学部長（現在に至る） 新潟大学大学院医歯学総合研究科長（その後交替し、現在研究科長） 教育研究院医歯学系長（現在に至る）		
学会及び社会における活動等	第 75 回日本衛生学会学会長 新潟県環境審議会会長 新潟県医療審議会会長		
賞 罰			
年 月	事 項		
昭和 54 年 6 月 平成 14 年 3 月	Rotary Educational Award 日本衛生学会賞		
その他参考となる事項			

主要業績に関する調書

氏名 山本 正治

教育に関する業績
1. 鈴木榮一、山本正治他：OSCE における評価の妥当性と信頼性についての検討、医学教育、34：37-44、2003. 2. 渡辺悌三、山本正治他：大学と医師会の連携による早期医学体験実習、日本医事新報、4092：24-29、2002. 3. 山本正治他：疫学、シンプル衛生公衆衛生学、南江堂、東京、2000. 他約 20 編
研究に関する業績
1. Yamamoto,M.: Epidemiological Studies on the Distribution and Determinants of Biliary Tract Cancer. Environ. Health and Prev. Med., 7:223-229, 2003. 2. Serra,I., Yamamoto,M. et al.: Association of Chilli Pepper, Low Socio-Economic Status and Longstanding Gallstones with Gallbladder Cancer. Int. J. Cancer, 102:407-411, 2002. 3. Yamamoto,M., et al.: Epidemiology of Gallbladder and Bile Duct Cancers. Smith-Gordon/Nishimura, London.1999. 他約 330 編
経営・管理運営に関する業績
1. 医学部研究棟の大型改修(I~III)で、共同研究スペースの創出、講義室、実習室の整備 2. 大学院医歯学総合研究科の立ち上げ・完成（花田前歯学部長・山田歯学部長と） 3. 医学部附属動物実験施設等を脳研施設へ移転し、脳研を研究機関として組織化 4. 新潟大学職員組合医学部分会と話し合い、分室の移転と整備を完了
その他（国際交流，地域貢献等）の業績
1. ロシア姉妹校（ウラジオストク医大、クラスノヤルスク医大、ファーイースタン医大）と医学生交流を平成 13~17 年度まで実施。実績として、①新潟大学医学部：日露医学生交流に関する報告書、2001~2005. ②ファーイースタン医大(ハバロフスク)客員教授(2004). ③クラスノヤルスク医大 Academic Council 名誉会員(2005). 2. 新潟ロータリークラブ会員として、国際交流、献血事業、地域清掃作業、交通遺児との交流会等のボランティア活動に参加（1983~2001）。米国ガルベストン市 honorary citizen(1994) 3. 新潟県環境審議会（会長）、新潟県医療審議会（会長）、新潟県労働基準審議会（委員）、新潟市環境審議会（会長）を歴任。他約 10 審議会・委員会活動に参加。労働基準行政功労者表彰(1999)

所 信 調 書

氏名 山本 正治

学長候補適任者として選出いただき光栄です。国立大学法人新潟大学の更なる発展に、微力ながら寄与できれば幸いです。医学部長として約6年間、荒川前学長、長谷川現学長に仕え、両学長の法人化前後の困難な大学運営を目の当たりにし、そのご努力に深甚の敬意を表します。

法人化後の中期目標・中期計画が既に明示されている現段階では、その目標・計画に沿ってさらなる前進を図るつもりです。しかし、その進め方は多様です。私は医学部長、大学院医歯学研究科長、学系長として旭町地区の管理運営に携わった経験を活かして、対処していきたいと思います。医学部長として大学院医歯学総合研究科の立ち上げのため講座再編の合意をいただきました。また医学部研究棟改修の概算要求のため各講座の保有面積25%の供出にも合意をいただいた結果、Ⅲ期に及ぶ全改修計画を完遂しました。全国的にも所期の目的を達成したのは2、3の大学と聞いております。これらの合意形成を得るために、“隠し事をせず、丁寧に説明し、間違った場合は謝る”ことに留意しました。脳研、医歯学総合病院でも組織改編、建物新営が具体化しており、旭町地区の基盤整備は着実に進んでいます。

ところで大学全体として発展するため今後取り組むべきことは、五十嵐地区の概算要求に十分な配慮を払うことであると思います。特に研究棟改修を始めとして、五十嵐地区の各部局から出された多くの要望が解決されていないという印象を持っています。

21年度には中期目標・中期計画の最終評価を受けることになりますが、中間段階で見直しが必要になるかもしれません。流動定員（90名）の残り定員の使用計画、流動定員で組織する超域研究機構のあり方の検討は焦眉の急です。任期制については、医歯学系での経験をもとに、全国的に研究者の人事交流が活発になるまで、実施には慎重であるべきと考えます。いずれにしても懸案事項は、自らが率先して説明責任を果たし、さらにその結果責任を常に意識して臨みたいと考えております。

最後に、新潟大学の将来構想ですが、県民・国民のあらゆるニーズに応える地域拠点総合大学を目指します。Think globally, act locally.のように、国際的視野を持った上で、身近なことを実行できる大学となりたいものです。具体的行動目標として、新潟大学を“面倒見の良い大学”とし、その学長は“面倒見の良い学長”であることを心がける所存です。

(平成17年11月17日)